

個別活動 モンテッソーリ活動

大 好 き

お 仕 事

ニドのモンテッソーリ活動



オプティックローラー
3種類の白と黒の幾何学模様のついたローラーです。低月齢から目で捉えることができ、手が当たるとローラーが回ります。



輪とリボン
輪に焦点を合わせて、手を伸ばし、触れたり、握ったりします。視覚・触覚の刺激を援助し、手と目の協応を養います。

I Cのモンテッソーリ活動



メールボックス
円柱や三角、四角の立方体を、それぞれの形の穴へ入れる活動です。目と手の協応、手首の動かしを促します。引き戸の扉を自分で開けて、繰り返し取り組んでいます。



あけうつし(トンク)
トンクを使って、小さな丸いスポンジを掴み、トレーの仕切りの中に移すお仕事です。トンクで挟む際の指の力加減、移す際の手首、腕の動かしを促します。

プライマリーのモンテッソーリ活動

移動五十音 (言語教育)

子どもたちが生活している環境の中にはたくさんの文字があふれています。家庭や保育園の他に、公共の道路や電車、バスなどあらゆるところでいろいろな文字を目にすることができます。自分の名前と同じ文字を見つけた時の子どもたちは、心から嬉しそうなお話してくれます。その子どもたちにとって、知っている文字を見つけるだけでなく、もし自分で書けたらどんなに嬉しいことでしょう。その思いを実現できるのが「移動五十音」です。五十音全ての文字が一文字ずつ書かれてある透明の小さなカードが、仕切りつきの箱に文字ごとにきれいに収められている教具です。ここで面白いことは、カードを置くことを「書く」と表現することです。実際に鉛筆などを持つことなく、好きな文字や知っている文字を自由に書くことができます。大好きな電車や、お友達の名前も、自分で「書けた！」と子どもたちの心に深い喜びをもたらしてくれるおしごとです。



個別活動 モンテッソーリ活動

大 好 き

お 仕 事

ニドのモンテッソーリ活動



カート

ハイハイ、つかまり立ち、立つ、歩くを援助します。重く、ゆったりとした動きが特徴です。歩行の自立を助けます。



鈴の入った転がり円柱

木の円柱の中に鈴が入っています。手を伸ばし触れて転がると音が鳴り、繰り返し追いかけます。掴むことが出来ると振って音を楽しむ姿が見られます。這い這いを促し、目的に向かい達成することで満足を得ることを繰り返し体験します。

I Cのモンテッソーリ活動



開閉(バックル)

布の中央についているバックルを操作し、布を開けたり閉めたりする活動です。布を開くことで中のイラストを見ることが出来ます。目と手の協応、指先の運動を促します。



イーゼル(クレヨン)

イーゼルに固定した画用紙に、クレヨンで自由に描くお仕事です。目と手の協応を促し、手首や腕をはじめ全身を使いながら、自己表現を楽しみます。

プライマリーのモンテッソーリ活動

子どもたちは、新しいことを知ることが大好きです。その一つに、私たちが普段よく目にする地球儀。子どもたちのお部屋の中にもあります。2種類ある地球儀は、どちらも私たちが知っているそれとは違い、国境も国名も表示されていない、つまり「大陸と海」だけのシンプルな造りになっています。今回はその一つ「白と青の地球儀」のご紹介です。白い部分は「大陸」を示しており、触ると砂紙のようにザラザラしています。一方青い部分は「海」でスベスベしています。子どもたちが慎重に地球儀を運ぶと、まず初めに感じることは地球は丸いということです。私たちはここで、地球は丸いということ、そしてもっともっと大きいということをお話ししていきます。また、ザラザラの白い部分を何度も触り「土」で出来ていること、一方青いスベスベは「水」で出来ていることをお話ししていきます。子どもたちは『地球は「土」と「水」だけでできている』ことに気づきたくさんの想像を膨らませます。そして続きのお話はもう一つの地球儀で行っていきます。



個別活動 モンテッソーリ活動

大 好 き

お 仕 事

ニドのモンテッソーリ活動



具体物

動物などの立体物で子どもが手で触れることの出来るサイズになっています。触れることで感覚的にとらえ、抽象化へ繋げるお手伝いとなります。



キオスクとつかまり棒

つかまり立ち、伝い歩きをすることを援助し、自立を助けます。自分で出来る喜びを味わい、自信へと繋がっていきます。また、両脇のキオスクには引き出しがついており、ボールを穴に落とし引き出しを引くとボールが出てきます。目と手の協応の発達を助けます。

I Cのモンテッソーリ活動



容器の開閉

身近にある色々な種類の容器を開けたり閉めたりするお仕事です。子ども達は楽しみながら繰り返し行っており、手首や指先の動きの発達を促します。



玉ねぎの皮むき

大人気のお仕事です。実物の玉ねぎにふれ、におい、感触に親しみ、両手を使って、何枚もある皮を最後まで根気よくむきます。目と手の協応、指先の運動を促します。

プライマリーのモンテッソーリ活動

プライマリーのクラスではバッチ（名札）を付けるという自分自身の身なりを整えるお仕事が始まります。子ども達は「安全ピン」の付け外しという初めての経験に出会います。はじめはお兄さん、お姉さんや先生につけてもらっていますが、次第に自分でやりたいという気持ちが芽生えてきます。尖った針先に注意しながら指先に力をこめ、毎日繰り返し根気強く練習する姿が見られます。「着衣枠」という教具があります。30センチ四方の木枠に服の前身頃のような布がついていて、安全ピンの付け外しなどを自分で練習することができます。他にもボタンやスナップ、ファスナー、尾錠、風呂敷結び、蝶結び、靴の紐などの型があります。子ども達は指先の調整をして自分の力でやり遂げたいと思っているのです。大人はゆっくりとした動きの手本を見せて子どもが一人で出来るようになるように見守ってあげます。自分のことを自分でできるようになると子どもの自信となり、周りの環境に心を開き、繋がりを持つ大きな一歩となるでしょう。

着衣枠（安全ピン）

（日常生活の練習）



個別活動 モンテッソーリ活動

大 好 き

お 仕 事

ニドのモンテッソーリ活動



掛けがね：

木でできた枠の開閉に掛け金が付いており、開けると動物や乗り物、植物など魅力的な写真が貼ってあります。目と手の協応を促します。子ども達が繰り返す、お気に入りの活動です。



トレー付の箱とボール

穴の開いた箱の中にボールを入れると、下のトレーに出てきます。大人では計り知れないほどの集中力、ただただ繰り返す！目と手の協応です。

I Cのモンテッソーリ活動



キーボックス

身近にある色々な種類の施錠を開けたり閉めたりするお仕事です。子ども達は楽しみながら繰り返し行っており、手首や指先の動きの発達を促します。



パズル

2～3個のピースのパズルから、形が同じで大きさや色の濃淡などが変化するものなど、形と輪郭の認識を発達させます。

プライマリーのモンテッソーリ活動

子ども達は、日々いろいろな形のものを目にします。丸いもの、三角、四角など、何気なく見てきたそれらの図形を、じっくり、楽しく探求するための教具がお部屋にはたくさんあります。それらはすべて、子ども達が単に眺めたり、「見る」だけではなく、全て「手で触って」調べることができるようになっていきます。例えば、この「構成三角形（三角形の箱）」という教具では、正三角形という形を、何枚かの三角形を組み合わせて作ります。同じ色の木製の三角形何枚かを、辺に引かれた黒い線どうして合わせます。直角不等辺三角形が2枚、鈍角二等辺三角形が3枚、小さい正三角形が4枚で、それぞれ正三角形が出来上がります。手で触って探求し体験した活動は、子ども達の印象に深く蓄えられるので、後に小学校で幾何の世界に再び出会うとき、何か親しみを覚えて理解を深めていくことができるのではないのでしょうか。モンテッソーリは、「手は知性の道具である」と言いました。教具を触ることに限らず、手を使ってこの世界を自由に探索したいこの時期の子ども達を、毎日の生活の様々な場面で応援できればいいですね。

構成三角形（三角形の箱） （感覚教育）



個別活動 モンテッソーリ活動

大 好 き お 仕 事

ニドのモンテッソーリ活動



ステア

両端に3段ずつ段差があり、昇り降りを楽しめます。ハイハイ、つかまり立ち、伝い歩きを促すとともに、段差での身体の使い方も身につけていきます。



半開きの箱

取っ手のついた引き出しをつまむと、半開きになります。中にはボールや貝等の魅力的なものが入っていて開けてみてください。

目と手の協応を促します。

I Cのモンテッソーリ活動



切る

はさみと紙が用意してあり、切ることで一枚の紙がたくさんになります。集中力や目と手の協応を養います。



掃く

ゴミをほうきで掃くことにより綺麗になります。その積み重ねにより気持ちも落ち着きます。子ども達が好きな活動です。

プライマリーのモンテッソーリ活動

街の中や公園などで、子どもが縁石の上をたどる姿を見かけたことはありませんか？そんな子どもの内なる衝動をとらえ、くみ取ったお仕事に「線上歩行」があります。毎朝、子ども達がクラスに入室する前に日課として行っています。まずは落ち着いて、一呼吸。長い廊下に引かれた白い線の上をゆっくりと、自分のペースで歩いて行きます。歩幅は靴の大きさと、出した足のつま先に次の足のかかとを付け進みます。上達するにつれ足元から顔をあげ、腕を伸ばしたり、お手玉を手の甲に乗せたり、バリエーションを楽しんでいます。青バッチは前後の友達の色も感じ取りながら身体のバランスを取り、すらっとした姿勢で歩くことが出来ます。目下の子ども達の中には未だ腺からはみでたり、身体がぐらぐら傾いたり、友達に追いつきぶつかったり、はしゃいだりする様子も見られます。朝のひと時、少し立ち止まり子どもが自身に意識を向けることで、これから始める仕事の心と体の準備が整います。

線上歩行

(日常生活の練習)



個別活動 モンテッソーリ活動

大好き

お仕事

ニドのモンテッソーリ活動



ペグボックス

トレーに置いてある 3 色のペグを小さな穴に入れます。よく見て、入れる・抜くという手の動きを繰り返します。目と手の協応を促し、入れる・抜くという動きの機会を与えます。



立方体と垂直棒

棒と立方体の穴の位置を確認しながら、通したり抜いたりを繰り返します。満足感が得られ、目と手の協応を促します。

I Cのモンテッソーリ活動



野菜をあらう

スポンジを使い水で洗います。ちょっと特別な気分で、真剣そのもの。本物の野菜にふれ、五感を使って、知性を広げ、自立心を養います。



まわす

指先で部品をつまみ、回して外したりつけたり

目と手の協応、手首の動きの発達を促します。

プライマリーのモンテッソーリ活動

今回は「ブラシを使う」という子どもたちが大好きなお仕事をご紹介します。クレヨンやペンなどで汚れたテーブルを自分たちで綺麗にします。台拭きなどで拭き取るだけではとれないような汚れを、石鹸をつけたブラシを使ってこすり、スポンジで拭き取り、乾いた小布でふきあげます。バケツや洗い桶、水差し、ブラシなど、活動に使う用具はすべて子どもたち自身が取り扱える小さいサイズになっていますので、使い方を習ったあと、心ゆくまで繰り返し行い、片付けまで行います。そうしてピカピカになったテーブルをお友達が気持ちよく使っているのを見て大満足します。子どもたちはお家で家事をする大人の姿に憧れ、やってみたい！という気持ちを持っています。食後のテーブル拭き、雑巾がけ、枯れ葉の掃き掃除などお家でも子どもたちと一緒にできそうなことがあります。上手にできるようになるには繰り返し練習することが必要で、大人の忍耐も試されそうですが、お手伝いをしたい気持ちでいっぱいの子どもたちを応援していきたいです。

ブラシを使う (日常生活の練習)



個別活動 モンテッソーリ活動

大 好 き

お 仕 事

ニドのモンテッソーリ活動



開閉：

ポーチや缶など開けたり閉めたりできるものがあります。両手を使うことや手首の動きを促します。



ボールを押し入れる箱：

箱の上に穴があり、ボールは穴より少し小さいスポンジに乗っています。手や指でボールに力を加え、箱の中に押し入れていきます。手や指で押す可能性を知らせています。

I Cのモンテッソーリ活動



具体物と絵カード

物の名称を伝え、具体物（立体）と絵カード（平面）を一致させることを楽しみながら、それらが同じものを表していることを認識していきます。

子どもの豊かな言語を導く、人気のお仕事です。



フラワーアレンジメント

じょうごを使って花瓶に水を入れ、好きなお花を選び生けるお仕事です。水をこぼさないように慎重に注いだり、生けた花瓶を花瓶敷きに乗せ、好きなどころに飾りに行くことも楽しみの一つです。

プライマリーのモンテッソーリ活動

私たちの暮らしの中で、情報をキャッチし、印象を取り込む際には「視覚」に頼るところが、大きいのではないのでしょうか。

ご紹介する「はめこみ円柱」も感覚教育の中の「視覚」のお仕事です。道具の台に入っている円柱は10本、木製でつまみがあり、漸次性（だんだん大きくなる）があります。子どもは3本の指で円柱の持ち手をつまみ、台の前にバラバラに出して置き、それを穴に戻していきます。ピッタリの穴でなければ気付く様に精緻に作られているので、子ども自身で「訂正」し、繰り返す事が出来ます。このお仕事は、よく見比べるうちに、本来子どもの中に眠っている、大きさを見分ける、順序付ける、一致させる数学的な感覚を呼び覚まして行きます。子ども達は上達すると予測できるようになり、円柱を離れた所に置き記憶して持ってきたり、友だちと交互に入れたり、色々な楽しみ方を行っています。このお仕事のテーマは「視覚を使った寸法の識別」ですが、モンテッソーリのお仕事はどれも大人に教わるのではなく、子ども自身が手(特に指先)を使って深めて行く、その過程をとっても大切にしています。

はめこみ円柱

(感覚教育)



個別活動 モンテッソーリ活動

大 好 き

お 仕 事

ニドのモンテッソーリ活動



縦型ボール落とし

上の部分に穴が開いていて、そこからボールを落とすと下まで転がり落ちていきます。傾斜はボールの動きを目で追えるよう考えられていて、視覚的に追試する動きを助けます。目と手の協応です。



円柱落とし

円柱と扉が付いた箱があります。箱の穴に円柱の形を合わせ落とし、扉を開けると円柱が見えます。目と手の協応を促す活動です。

I Cのモンテッソーリ活動



板落とし

手つくりの教材で、薄い木の板をそれが1枚通るくらいの隙間に入れて反対側へと落とします。楽しみながら繰り返し行っており、手首や指先の動きの発達を促します。



楽器

さまざまな楽器を、かごに入れて紹介しています。実際に触れながら音や名称を知っていくことができます。好きな歌や季節の歌とともに鳴らして楽しんでいます。

プライマリーのモンテッソーリ活動

以前ご紹介した「白と青の地球儀」に続いて、今回は次の活動「色つき地球儀」についてご紹介します。名前の通り大陸ごとに色がついた地球儀で。アジアは黄色、オセアニアは茶色、アフリカは緑、ヨーロッパは赤、北アメリカはオレンジ、南アメリカは桃色、北極と南極は白と、きれいな色は子どもたちを魅了します。この地球儀も国境はありません。「白と青の地球儀」では地球は土と水で出来ているというお話でした。ここでは、初めて人間によって大陸ごとに色がついています。子どもたちは、それぞれの大陸の色に興味を持ちながら、自分たちが住む日本はどこだろうと興味を抱きます。また新しい言葉も知ります。「つち」は「大陸」、「みず」は「大洋」です。この活動を終えた子どもは日常の中にも大陸を見つける名人となります。例えば、雨上がりの水たまりの形がオセアニアに似ている、近所の垣根の葉のつき具合がアフリカに似ているなど、地球儀から「世界」を知った子どもの豊かな想像力には感心させられるばかりです。

色つき地球儀
文化教育



個別活動 モンテッソーリ活動

大 好 き

お 仕 事

ニドのモンテッソーリ活動



フックかけ：
どんぐりのフープを
フックからはずしたり、
またかけたり。
目と手の協応、指先の
洗練を助けます。



絵本：
繰り返しの言葉や色
のはっきりしたものを
好み、大人の口の動き
をよく観察したりして、
発声の楽しさを
味わいます。

I Cのモンテッソーリ活動



カラーステップ：
縦 5 つ、横 5 つの穴に
5 色の棒をさしていきます。
目と手の協応の発達を促
します。月齢が上がるほど、
色の統一や階段の様に並べ
ていく姿が見られます。



ひも通し：
ひもと穴の開いたビーズが
あります。片手でひもを持
ち、もう片方の手でビーズ
を抑え穴に通します。
集中力を養う活動です。

プライマリーのモンテッソーリ活動

ご紹介する「ぬいさし」は、いつも誰か（特に赤バッチさん）が手に取っている人気のお仕事です。はじめに、絵の付いた台紙・目打ち・裁縫道具（毛糸針・糸・ハサミ・糸くず入れ）がセットされたお盆を、机に運びます。次に好きな台紙を選び、台紙の絵柄に沿って打ってある点に目打ちで穴を開けます。あとは針に糸を通し、開けた穴に沿って波縫いをして行きます。最初は、玉どめをせず糸を引き抜いてしまったり、力あまって糸が絡んだり、針を刺す位置があちこちになったりしますが、大丈夫。何度も繰り返し、幾日もかけ手慣れて、いつの間にか自分を上達させて行く子どもの力にはいつも感心させられます。台紙を2枚重ねて縫えば、バックになりますし、青バッチの頃には、他の縫い方にも挑戦、数枚の紙をかさね縫い閉じて、本を作ったりしています。人は大昔から針と糸で、品々を作り、暮らしを豊かにして来たことを思うと、子ども達にも大いに、手仕事の工夫や楽しみを味わって欲しいと思います。

ぬいさし

（日常生活の練習）



個別活動 モンテッソーリ活動

大好き

お仕事

ニドのモンテッソーリ活動



リングと水平棒：
木の板と水平になるように棒がついており、そこへ穴のあいたリングを通していきます。親指と人さし指でつかむこと、また横に手を動かし穴へ通す動きを促します。



円形台とサイズの異なるリング：
リングの大きさが4つとも違い、大きいリングから順に中央の棒に通していきます。1つずつリングが棒に通り、徐々に高くなる事が嬉しくて、何度も繰り返し行う姿が見られています。握る動きが洗練され、目と手の協応の発達を援助します。

I Cのモンテッソーリ活動



あげうつし
スプーンを使って隣のお皿に移すお仕事です。お皿を抑えてスプーンを動かす際の力加減、スプーンの持ち方、移す際の手首、腕の動かしを促します。



フィッシングバック
感触の違うものを袋に入れて中身を見ずに触った感触だけで大人が伝えたいものを取り出す高月齢児向けの活動です。

プライマリーのモンテッソーリ活動

普段の生活をよく観察してみると、子どもたちのまわりにはたくさんの数字があふれていますね。例えば、バスに乗る時にも数字に触れる機会がたくさんあります。ナンバープレートや行き先表示にある番号、車内広告にある住所番地や電話番号、電光掲示の料金表などたくさんの数字を目にします。時には、じっと見つめてお口を小さく動かしている姿を見かけることもあります。数字への興味を一度持ち始めた時、自分でどんどん広げていく力は目を見張るものがあり、一緒に順に数えていくと本当に嬉しそうにします。その特性を上手く捉えた教具が「100のくさり」です。今まで慣れ親しんだ100のビーズ。こんどは、本当にビーズが100こあるのか、じっくり数えていく活動です。100のビーズは一枚の板状ですが、ここでは数えやすく一本の長いくさりに形を変えたものを使います。おしごとを準備するときから、早く数えたい気持ちにあふれ、いざ数え始めたたん、自分の世界に入り込み深い集中に誘われます。本当に100こあった！と、大きな発見をしたような満面の笑顔と、満足で満たされた表情は、私たち大人にとっての大きな宝物ですね。

100のくさり (数教育)

